

公孫樹

2022年5月発行
第124号
浄土宗慶蔵院
伊勢市小俣町元町1211
TEL0596(22)3726

ご心配をおかけします。脳梗塞・心臓病の予防にむけて、
徐々に、健康体をとりもどしつつあります。三ページの報
告をご覧ください。火・金曜は八尾市に施療に出ています。

伊勢市のお土産を
他人のそばに



西里定一 作

今年度からは「落語会」の前座の法話で
勉強させていただきます!!

二〇二一年四月より毎週水曜日に行ってきた辻説法を、三月二日、五百回目をもって終了させていただきました。この間、雨の日も風の日も、熱い折、寒い折、若山墓地の納骨堂の前に聞きに来てくださった皆さん、ほんとうにありがとうございました。おかげで様々な体験と勉強をさせていただくことができました。

それと合わせて、四月より、月別行事活動の縮小、日本語支援・学習支援「てらこや塾」の抜本的な改変を行いました。ひと月を経て、流れが整いつつあります。

一つには、「辻説法」の代わりに「落語会」を開始したことです。三ページに紹介されている東風さん、栄歌さんの落語の前座として、住職の法話を十五分させていただいています。「辻説法」で行ってきた内容を、なんとか形に残せるものに仕上げていきたいとの挑戦をさせていただいています。一年間で十二席の法話をつくりあげるという目標です。

二つには、改変された「てらこや塾」の様子です。個別の学習指導、絵画教室、茶道教室、英語の歌教室、大人の英語サロン、子育て支援の活動が実施されています。もちろん「一会館」を利用しての葬儀の実施が最優先されます。

三つには、男性詠唱隊の活動が昼間に移り、地蔵講の女性の皆さんとの合同による御詠歌の練習が始まりました。これまでも初盆精霊送りでは一緒に取り組んでいたのですが、このほど、ともに地蔵講の再生とより広く「身代わり地蔵」を知っていたらこうと願って、活動が開始されました。

永代供養墓の設立準備も開始されました。三十日の寺世話人会議には、竹谷さん・石丸さんにきていただいて、構想企画について、専門家の立場から、プレゼンテーションをお願いしました。やっと動き出すことができました。

5月の行事予定



4日(水)	写経	午前10時～
18日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生 落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後1時～ 参加費 500円 午後7時～ 一会館にて 無料
25日(水)	戦没者慰霊 男性詠唱隊 地藏講	午前11時～ 午後1時半～ 午後3時
12日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 参加費1000円 一会館にて
13日27日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～子供茶道教室 7時半～大人茶道教室 子ども 無料 大人 500円 一会館にて

慶蔵院豆知識

②



満開の桜が私たちの心を虜にしていたのに、「咲いて誇らず」とはこのことでしょうか、さっと散ってしまい、もう次の準備を進めています。桜蕊が境内を赤く染めていたかと思うと、すでに若葉に…、銀杏の大木も、待ってましたとばかりに芽を吹き、天に向かって伸びようとしています。沢山の葉がついています。その葉、一枚一枚が真っ黄色に変わる日に向かって…。クヌギが、ケヤキも芽吹き、境内に射す光りの影が、日に濃くなっています。

今日は雨です。穀雨というのだそうです。土の中で小さい種が、今か、今かと準備しています。季節を間違うことなく、自然は移り変わり、ありとあらゆるものに恵みを与えてくれます。そして風薫る清々しい五月の登場です。

「麓の波と 雲の波 重なる波の 中空を 橘かおる 朝風に 高く泳ぐや 鯉のぼり」

気がつけば、いつの間にか周りには、鯉のぼりが泳ぐ中空が無い。時折、新聞紙上に、溪や河を跨いで泳ぐ鯉の写真を見かけるばかり…。これが時代の流れなのでしょう。みんなが忙しくなったのでしょうか。世の中もまた自然の中にあるはずなのに…。

ランドセルをしょって通学する一年生の姿…。この子達に戦火のニュースなど見せたくない。正しい心こそが幸せを生み、自分も幸せになれる…と伝えていきたい。自然の営みに心を寄せながら…。

(栄子)

浄土宗新聞を無料で お渡しします！！

5月号読みどころ
12ページ 「日常の仏教語『退屈』について」
退屈は、仏道修行の厳しさに負けて気力が減退すること
を表し、退き屈することが元の意味だそうです。仏教では、
退屈か楽しいかは自分の心の在り方次第というのです。



おしらせとおねがい



- ※ 令和4年度護持会費の納入をよろしく
お願いします。
- ※ お家に、使わなくなった詠唱用の
「鉦・りん」寄付していただけません
か。地藏講に加わった男性詠唱隊が、練
習に使わせていただきます。

倉野正和さん
太田茂男さん
松家昇さん
宮西栄子さん
倉野明彦さん
飯田信雄さん
山西暁彦さん
中村淳さん
野呂俊文さん
堀江明さん
川元正春さん
大西稔さん
藤原幸夫さん

大西弘士さん
麻畑公生さん
森下幸さん
倉野幸次さん
奥田悦生さん
棕本卓史さん
奥野正志さん
奥野幸宏さん
寺世話人五役として、
奥田さん、太田さん、
飯田さん、山西さん、
大西稔さんにお世話に
なります。

令和4年度の寺世
話人の皆様です。



楽亭

前回、大好評でした。東風さんは桑名の
サメ。講談話のオンパレード。栄歌さん
は、「ちりとてちん」。爆笑に次ぐ爆
笑。単身赴任中を語るまぐらも。



時

（面白かったらおひねりをお願いします！）
今月は 第3水曜 18日 午後7

落語会 「いちご亭」 無料です

慶蔵院「一会館」にて

出演 南遊

女

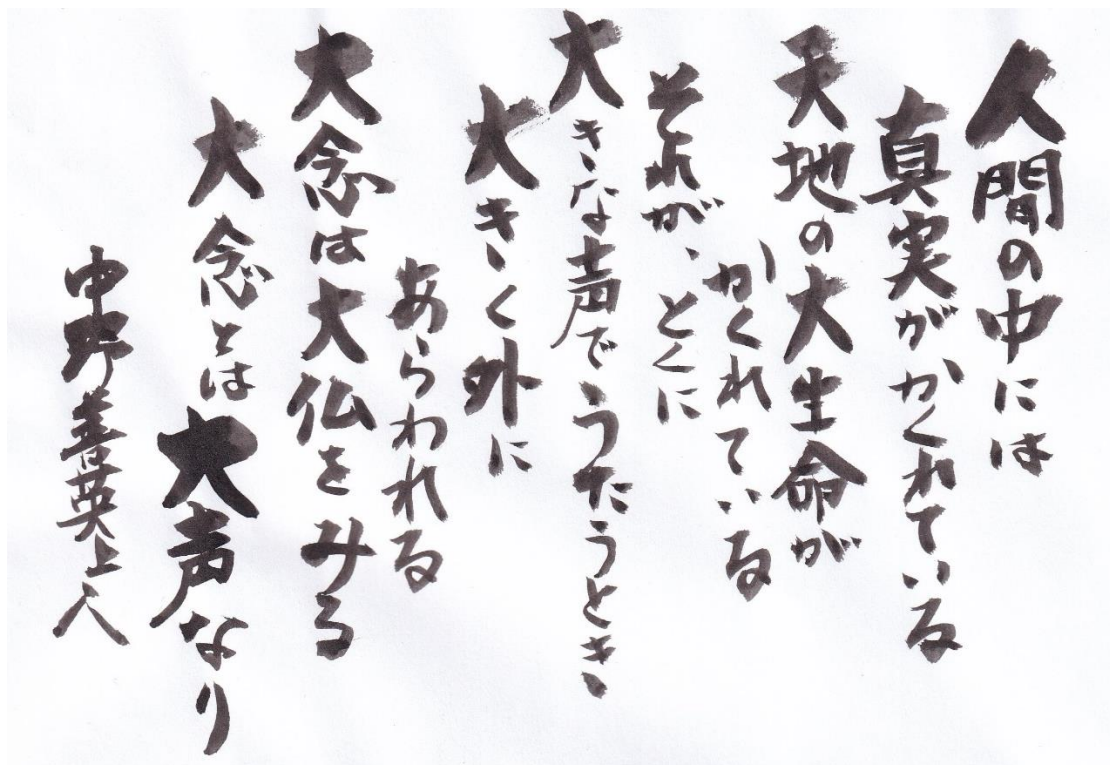
住職の健康回復への道のり (四)
毎週、二回の施療を通して、健康を取り戻していく身体の美
感をまとめます。

- ① 体重は、76キロから69キロ台に減りました。
- ② 耳鳴りが改善され、左耳の聞こえ方もよくなりました。
- ③ 急な尿意が消え、我慢ができ、「紙おむつ」が不必要に。
- ④ 信号の判別、夜雨の視界も回復しました。しかし運転ミス
は多いので、車を捨てることにしました。三輪自転車検討
中。
- ⑤ 背筋が伸び、大股に、まっすぐ歩けるようになりました。
- ⑥ 17年間も抱えてきた、足の甲のタコが治り、正座の痛み
が無くなり、むくみも取れました。
- ⑦ 首まわりが細く、やわらかくなり、肩こりが消えました。
- ⑧ 薬を止めて、尿酸値が、7弱のところまできました。
- ⑨ 心臓周辺にたまっていた水が減り、正常値の値まで
に、あと少しのところまで改善してきました。
- ⑩ 健康のバロメーターとされているお腹、特に上腹部の
固さに改善がみられ、徐々に柔らかく、温かくなって
きています。

法然さまの遺徳偲んで御忍参り

奥田 悦生

（「知恩」誌五月号「柳壇」に掲載）



大声で叫ばなければならない。大声で歌わなければならない。大念を以て、大仏の仏念をいたたこうではないか。人間の中にある真実に目覚めねばならない。もの皆生かす天地の大生命の中にあつて、この私が生かされていることを、謙虚に感謝して受け止めなければならない。大きな声で歌うとき、このことに、きつと、世界は、気づくことができる。世界に、この歌声を届けなければならない。

横井久美子は歌っている。

「歌は私に教えてくれた。この世にどれほどの悲しみと痛みがあるかを。…たとえ大地が悲鳴をあげて、憎しみが大空を覆っているも…歌は私に示してくれた。人間が積み上げた英知を、人生の深さを。…たとえ世界が闇に包まれ、争いが地上を覆っているも…」

いまこそ、人間の中にかくれている真実・天地の大生命に目覚めなければならない。歌うことで、真実は、大きく外に現れ出てくるのだ。

横井久美子は歌う。

「こんなに人生を美しく感じるのは、歌があったから」と。ロシアとウクライナのすべての人々に伝えたい。歌がどれだけ希望と勇気を、私たちの青春にあたえてくれたことか。自国の自由のために、他国の自由を踏みについてはならない。

一緒に歌おうではないか。

『僕らにや一つの仕事があるだけ。自由の国拓く仕事かひとつ。雪や風、星の飛ぶ夜も、心いつも彼方をめざす…』

共に、たとえ困難であっても、彼方を目指そうではないか。

横井久美子は叫ぶ。

「独りを怖れるな。すべては独りから始まる」と。

そうだ。歌おうではないか。「心さわく青春の歌」

『君と僕二人、励ましあいながら。結んだ友情、いつまでもつづく、雪や風、星の飛ぶ夜も、心いつも彼方をめざす』